

なごや 文化 情報

2020
5・6
May / June

No. 392
NAGOYA
Cultural
Information

随想／大崎 のぶゆき(美術作家)
特集／第3回「コノハなごや」受賞作
この人と…／ボッドマン 由利子(依田フラメンコ主宰)
いとしのサブカル／濱尾 和毅(お笑い事務所「株式会社どっかんプロ」代表取締役社長)





Contents

名古屋市民文芸祭 小・中学生の部 受賞作品…………… 2

随想 作品に連れ出されて
大崎 のぶゆき(美術作家)…………… 3

特集
第3回「コトノハなごや」受賞作…………… 4

この人と…
ボッドマン 由利子(依田フラメンコ主宰)…………… 6

ピックアップ 今、若手音楽家が熱い! Vol.2 …………… 10

いとしのサブカル 今、名古屋のお笑いが熱い!
濱尾 和毅(お笑い事務所「株式会社どっかんプロ」代表取締役社長)… 11

おしらせ…………… 12

表紙

作品

風 ―不可視―(立体書)

(2014年/綿料夾宣二双紙、墨、木/H240cm×W700cm×D60cm
(1個 H80cm×W400cm×D40cm))

「書」を揮毫したのち、立体として組むことにより、存在しえなかつたであろう時と新たな空が生まれます。この作品は、不確かで圧倒的に確かな「風」の軌跡の作品です。(この立体書作品は組み替えることにより意味が変化します)



南オーストラリア州立美術館所蔵作品

渡部 裕子 (わたなべひろこ)

略歴

- 1970年 愛知県名古屋市生まれ
- 1993年 中京大学文学部国文学科卒業
- 2013年 JapaneseArtsSelection in the LES特別賞(NY) アジア創造美術展大賞
- 2014年 南オーストラリア州立美術館 立体書収蔵
- 2017年 MELCARTgallery(パリ)
- 2019年 TenriGallery(NY)、Gallery沙庭(軽井沢) ジルダールギャラリー(名古屋)

公式ウェブサイト <http://www.hirokowanabe-sho.com>

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 杵屋六春 (長唄・唄方 名古屋音楽大学講師)
- 鈴木敏春 (美術批評・NPO法人愛知アートコレクティブ代表理事)
- 濱津清仁 (指揮者)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽおと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座 制作部長)

- 「2019年 名古屋市民文芸祭」
(第七十回名古屋短詩型文学祭)小・中学生の部
短歌の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。
- ◆市長賞 ◆ 名古屋市立城山中学校2年 後藤 優樹
 - ◆市会議長賞 ◆ 名古屋市立今池中学校3年 澤田 美生
 - ◆市教育委員会賞 ◆ 東海市立加木屋小学校2年 渡辺 六花
 - ◆市文化振興事業団賞 ◆ 岩倉市立曾野小学校3年 山口 浩輝
 - ◆名古屋短詩型文学連盟賞 ◆ 名古屋市立八王子中学校2年 山口りら
 - ◆中日賞 ◆ 名古屋市立左京山中学校2年 小川 明莉
- 暗闇にほのかに光る手花火が
照らし出すのはまぶしい笑顔
- みずたまりどこからきたのあじさいが
うつつてきれい あつわたしもね
- 教室のまどから見える名古屋駅
母のしよくばはあのへんあたり
- 秋雨で一層深まる森の匂い
自然のアロマに心やすらぐ
- 弟と大ゲンカしたその後の
泣き顔を見て笑い合う二人

随想

作品に連れ出されて



おお さき

大崎 のぶゆき(美術作家)

2015年「未見の星座」(東京都現代美術館)、2017年「Noemi Weber/ Nobuyuki Osaki」(ルートヴィヒ・フォーラム美術館/ドイツ)、2019年「アイチアートクロニクル」(愛知県美術館)など国内外で作品を発表。2009年「第12回文化庁メディア芸術祭」審査委員会推薦作品、2013年「VOCA 2013」佳作賞、2015年名古屋市長芸術奨励賞、2017年大阪市「咲くやこの花賞」などを受賞。
Instagram : @nobuyukiosaki

僕はインドア派だ。しかし「インドア派」というと、インテリジェンスな人間だと誤解を受けそうなので「引きこもり体質」と言い直しておく。もちろん美術作家なのでスタジオで制作したり、構想したりする時間は必然的に多いのだが、おそらく、筆ってみたい、と思う時間が人より多い。そんな僕が、ここ10年くらい毎年海外を訪れている。引きこもり体質の僕を、いつも作品が外に連れ出してくれるのだ。これまでに、アメリカや中国、台湾、オーストラリアなどいくつかの国々を訪れた。いずれも展覧会の出品や作品制作のためであるが、そのたびに知らない人々や文化に出会うことになる。どれも僕に刺激を与え、さまざまな面白い考えや何かを投げかけてくれた。

去年はアーティスト・イン・レジデンスとして、約一ヶ月間アルゼンチンのブエノスアイレスに滞在した。アルゼンチンの事情や都市についての知識もなく、滞在が決まってからこの街について調べ、日本から移民した沢山の人々が暮らしていることを知る。最近の僕は、ブロック宇宙論やスポットライト理論といった現代宇宙論や時間論への興味から、個人の記憶をモチーフに作品を制作している。「過去・現在・未来」といった複数の時空を並列に考えて展開させようとするアイデアから、同世代に近い日系移民の三世、四世の方々の記憶や思い出に

ついてインタビューをしたり、アルバム写真を見せてもらったりしてきた。僕は彼らの記憶や思い出について話を聞くことで、未来について考えることになるのではないかと考えたからだ。僕は記憶や思い出について、ユニークピースでありマルチプルだと考えている。これは個人にとって間違いなく唯一のものであるのだが、他者の記憶に触れることで、自分自身と繋がって転写していくようにも感じる。このなんともいえない時空を超えて繋がっていく感覚は、確かに存在している。アルゼンチンという真反対の場所で生きる彼らの記憶や思い出。そして僕がこの滞在で感じた記憶や思い出。その出会いはたまたまであり、また必然かもしれない。時空は繋がっていくのだ。

この滞在で制作した作品を、今年の秋にドイツ・キール市の美術館で発表する。ドイツが2015年の欧州難民危機で多くの移民を受け入れたことは記憶に新しいが、移民が継続的に流入してきた歴史も持っている。ドイツ人がどのような眼差しで僕の作品を見るのか今から楽しみだ。そんなことを考えながら、スタジオに籠ってこの展覧会のための展示計画を練っている。引きこもり体質の僕は、作品に連れ出されて、今年も知らない人々や文化に出会うことになるらしい。それもまた楽しいからいいのだけれど。

文芸による名古屋の魅力発信事業

第3回「コトノハなごや」受賞作

「日常のなごや」の魅力を言葉やアート表現にしていく体験や、短編作品応募で参加する「コトノハなごや」。2017年度にスタートし3年目を迎えた今回も、「なごや」を切り取った5枚の写真をもとに、日常での体験や人との交流、風景との出会い、ものへの思いなどの「なごやとわたしの物語」を募集し、336の力作が寄せられました。厳正なる審査を経て、金賞1、銀賞2、佳作2の5作品が選ばれました。今回は、その中から見事金賞・銀賞を受賞した3作品をご紹介します。

<選んだ写真> 名古屋市交通局バス

金賞

「行き先は星々の世界」

やまとみやよい(名古屋市)

岐阜市に住む小学6年生の神保加奈は、密かなおしゃれをして学校に通っていた。名古屋で一人暮らしをしている8歳上の姉の美奈がピアスあこがをしているのに憧れ、虹色に輝く星型のシールを耳たぶに貼り、髪の毛で隠して登校していたのだ。



写真：宮田雄平

ところが、クラスのボスである藤堂さんに見つかってしまった。藤堂さんに「それ、ピアスのつもりな感じ?」とニヤニヤされ、加奈は真っ赤になった。しどろもどろになり、震える手でシールを剥がした。それ以来、加奈は藤堂さんグループの良いオモチャとなった。

何があろうと両親の前ではいつも通りに振る舞っていた加奈だが、姉には「学校むり」と短いラインを送った。美奈は土曜日になると岐阜に戻ってきて加奈を名古屋に連れ出し、アパートに泊め、何時間でも話を聞いてやった。そして日曜日には二人でバスに乗り、どこに行こうか何食べようかと盛り上がりながら、名古屋の街のあちこちに出かけるのだった。

中でも加奈は栄が大好きだった。三越とラシックと松坂屋とパルコが立ち並ぶ大津通は、歩いているだけでわくわくする。そして何より、ここに来るとぶっ飛んだ格好の人に必ず遭遇するのがいい。全身をショッキングピンク色でコーディネートしている若いお母さん。高級ブランドのロゴをパッチワークしたTシャツを着る小学生。全ての指に金の指輪はを嵌めているおじさん。正直言ってセンスがよく分からないけど、自分の「素敵」を貫こうとする揺るぎなさにはガンガンに伝わってくる。強い。名古屋強い。私もこうだったらな。加奈は思う。買って買って、そしたら無残に砕かれた心のかけらだって拾い上げて、バットで宇宙にかっ飛ば

し、空に輝く星にするんだ。

また平日の朝が来た。どんよりと曇る空の下、とぼとぼと通学路を歩きながら、加奈の心は家を離れ、学校を離れ、岐阜を離れ、名古屋に飛んでいた。栄へ。栄へ。バスに乗って、栄へ。世界を与えてくれる、栄へ。

<選んだ写真> 東山総合公園

銀賞

「頑張れよ」

きなこごはん(名古屋市)

エレベーターは、展望台に向かって上昇を始めた。

私の隣には、逞たくましい身体をぴしりとしたダークスーツに包んだ彼。でも、彼が誰なのか、何故私とここにいるのか、どうしても思い出せない。思い出せるのは——。「見せたいものがあるんだ」

そう言った彼の、まなざしだけ。

ちらりと横目で見上げると、彼は、彫の深い顔に真剣な表情を浮かべ、じっと外を見つめていた。私は視線を逸らし、遠ざかりゆく地上の世界を見下ろす。三か月間、毎日のように通い詰めた動物園。上司のセクハラに耐えかねて会社を辞めてからの、私の、唯一の居場所。

エレベーターが止まった。扉が開く。踏み出した途端、目に飛び込んできた景色に、私は息をのんだ。

視界の端から端まで、見渡す限り広がる世界。上半分は、擦すられるような白い雲を浮かべた水色の空。下半分は、凹凸おぼつを繰り返しながら連なる街。その合間、遠くに滲む山の端。

「ちっぽけなもんだろ?」

擦れた低い声で、彼は囁く。ここから見れば、オフィスのあった栄も、名駅の高層ビル群さえも、白く霞んで淡い影のようだ。

「——本当に」



写真：宮田雄平

なんで、三か月もよくよしていたんだろう。こんな広い世界の中、たまたま出会った一人の人とうまくいかなかっただけで、もう終わりだなんて思ったりして。

「ちっぽけな、ものですね」

男性の言葉を繰り返した時、私はハッとしました。目だけを動かして、私は彼を見る。——間違いない。

引き締まった口元。張り出した額に、くっきりと濃い眉。優しい黒い瞳。

三か月、毎日見てきたのだ。

「シャバーニ」

眩つばやくと彼は、こちらを見て微笑んだ。

<選んだ写真> 旧東海道有松の街なみ

銀賞

「妖怪」

あるのみみ弥矢や(北名古屋市)

「ここ、見覚えがある」

母に連れられて、観光客でにぎわう古い街並みを歩いていたら、突然周りの景色が昔の記憶と重なった。

今よりも小さな歩幅。前に伸びる

小さい影の隣に大きい影。私の手をつなぐ誰かの手。両親や保育士さんとは違う、間延びしたリズムの声。言葉が文章で話せるようになったくらいの子どもの私には、何と



写真：宮田雄平

話しかけられているのか分かるようで分からない。周りの建物も自分が住んでいるところに比べて、何か違う。黒と白の壁。木でできた格子こうしの窓。ピカピカに光る屋根の瓦。古いような新しいような、その不思議な世界を、幼い私は怖がりもせず、むしろ見とれて歩いてた。

「そういえば、小さいころに一回来たわねえ。ひいおばあちゃんに連れられて」

そうか、あれはひいおばあちゃんだったのか。後で、たくさん長生きすると物も動物も人も妖怪になるという絵本を読んだとき、あれは妖怪で、私は異世界に連れてかれたんだと興奮してたけど、風景は江戸時代の街並みを残す保存地区、言葉もこの地方の方言だったから分からなかったんだ。

「ほら、着いたわよ」

通りを抜けてしばらく行くと、私と母は一軒の家に入った。中には親戚と思われる人たちが集まっていた。座卓で話をしたり、隣の台所でお茶や料理を準備していたり忙しそうだ。

もう一つ奥の和室に、女性が横たわっていた。母が伯母と話を始めたので、私は大人たちに気づかれないよう、奥の和室に忍び入り、顔を覗きこんだ。瞬間、通りでよみがえった記憶の手の先に体がつながり、顔まではっきりと現れた。

この人かたわが、あのときの妖怪、もとい、ひいおばあちゃんだ。私が傍まわらに座ると、瞼まぶたが開いた。

「百歳、おめでとう。ひいおばあちゃん」

今日は百寿のお祝いだ。でも妖怪になるには百年じゃ足りないかもしれない。だって、あの街は二百年以上経っても生き生きとしてるんだから。

授賞式 & 公開講評トーク

「コトノハなごやサロン」

2019年12月7日(土)に栄のナディアパーク7階「7th cafe」にて、入選20作品の中から受賞作品の発表と、選考委員の中村航氏、吉川トリコ氏、武田俊氏による公開講評トークを行う「コトノハなごやサロン」を開催いたしました。入選作品の作者の皆様をはじめ、たくさんの方々にご参加いただきました。第1、第2回と同様に受賞作品は「コトノハなごやサロン」当日に発表したため、受賞者の皆様からは歓声や驚きの声があがりました。授賞式にて賞状と副賞が手渡された後に開催した公開講評トークでは、選考委員と参加者の皆様との入選20作品への講評・トークが繰り広げられました。作者の皆様にとって、選考委員から直接作品講評を受けるだけでなく、選考委員に質問もできる貴重な時間となりました。

次回の「コトノハなごや」について

2020年度「コトノハなごや」の実施につきましては、感染症拡大の防止という観点から調整しております。詳細につきましては、公式ウェブサイト(「コトノハなごや」で検索)で発表いたします。



「コトノハなごやサロン」の様子

この人と...



様々な舞踊から得たノウハウを生かし、創作、表現活動を続ける由利子さん

依田フラメンコ主宰

ボッドマン^{ゆりこ}由利子さん

この取材のために、東山にあるスタジオを訪れると、一人の女性が黙々とステップを踏んでいた。声を掛けるのもためられたので、私は少しの間彼女に見入った。力強く巧みなステップである。依田フラメンコ主宰のボッドマン^{よだ}由利子さん(1947年、東京都出生)だ。

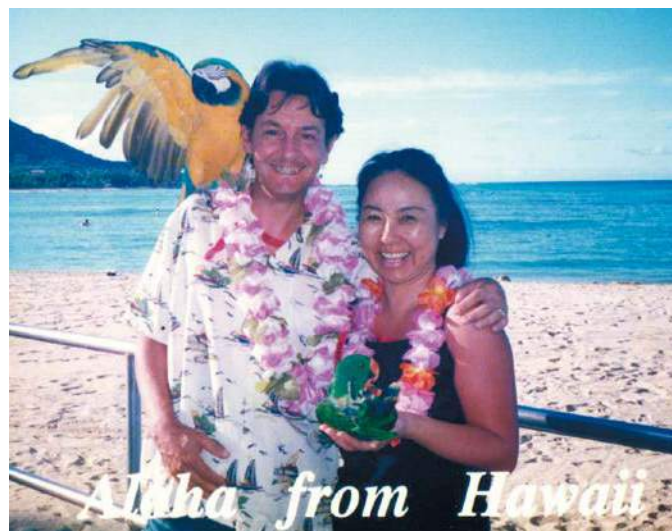
(聞き手：上野茂)

6歳で日本舞踊の手ほどきを受け

——名刺に「ボッドマン由利子」とありますが…。

「スペイン留学中に出会い、結ばれた、夫マイケル・ボッドマンのファミリーネームです。とても素敵な男性でした。2000年に他界しましたが、私の中には、今も彼がいて、私を導いてく

夫のマイケルさんと(1970年、ワイキキビーチで)



れるんです」

新婚旅行の写真をを見せていただいた。ワイキキの浜辺でほほえむ美男美女、幸せの絶頂にあるマイケルさんと由利子さん。写真を見ているだけで幸せな気分になってくる。なんとも素敵なカップルだ。



兄、姉と日本橋の写真館で(1954年)

は6歳になると芸事を始めたものでした。私も6歳の時、藤間流日本舞踊の手ほどきを受けるようになりました。もちろん、姉と一緒にした(笑)。お弟子には芸者さんたちも多かったのですが、私たち町娘には優しいお師匠さんが、芸者さんたちにはとても厳しかったことを覚えています」

——それでは順を追って生き立ちを聞かせてください。出生地は東京・日本橋とプロフィールにあります。どんなご家庭だったのでしょうか？ 町の様子、家族構成などもお聞かせください。

「生家は呉服商を営んでいました。お客の大半は浜町の芸者さんでした。7歳上の兄(征矢夫)、3歳上の姉(小夜子)、そして私。何をしても、どこへ行くにも姉と一緒にでした。当時

中学時代は有名モダンダンサーに師事

——少女期の面白いエピソードがあれば聞かせてください。

「私は真ん丸な顔をしていたので「マルコ」と呼ばれていました（笑）。私が通った東華とうか小学校はとても裕福な学校だったようで、グランドピアノが2台もあり、アコーディオンやマリリンバなどもありました。タレントで東京都知事を務めた青島幸男さんも東華小の卒業生なんですよ。私は踊ることが大好きで、盆踊り大会にはどうしても櫓やぐらに上がりたかった。それで盆踊りの指導をする先生のところへ盆踊りを習いに行き、ちゃっかり希望をかなえてもらいました」



邦正美先生の「舞踊の歴史」でNHKテレビ出演（1960年）

——行動力旺盛なお嬢さんだったんですね（笑）。その後、由利子さんはモダンダンス、舞踏にも興味を持ち…。

「中学の体操の先生がモダンダンスをやっていて、私も有名な舞踏家だった邦正美先生にダンスを習うようになりました。当時のユニホームが、とても露出度が高く、恥ずかしかったことを覚えています（笑）。高校時代には演劇や暗黒舞踏にも出合いました。創始者・土方たつみ巽さんの流れをくむ田中みな浪さんの舞台を見る機会がありました。ほとんど動かず立っているだけなのですが、その緊張感がすごかった。田中さんは、実際に崖かきっぷちに立ち、命懸けで踊っていると話していらっしゃいました」

高校時代には哲学に関心を持ち

——由利子さんのお兄さんも演劇をやっていたらそうですね。

「兄は児童演劇から始まり、高校でも演劇活動を続けていました。私も出演させてもらったことがありました。兄はNHKで音響技師になり、その後、帝国劇場に職を得ました。おかげで私も菊田一夫さんが手掛けた、たくさんミュージカルを見ることができました」

忍岡高校屋上でクラスメートと（1964年、左端が由利子さん）



——高校時代、ダンス以外にも出会いがあったとか。

「私が通った都立忍岡高校には「倫理の時間」があって、哲学に興味を持つようになりました。『人生とは何か』『人はいかに生きるべきか』、そんな疑問の答えを求めて、法政大学哲学科に進みました。ところが当時の大学は紛争の真っ最中で、落ち着いて勉強できる状況ではありませんでした。唯一の収穫は、哲学者の福田定良先生に出会うことができたこと。先生の世界観に触れ、私の視野は大きく広がりました。もちろんダンスも続けていました。在学中には舞踏家・笠井あきら勲先生の、ヨガを基礎にした優美なダンスに魅了され、先生が主宰する「天使館」に入門しました。」

ジプシーのフラメンコを求めて

——大学を卒業し、いよいよフラメンコが登場するわけですね。

「哲学を学んだせいででしょうか、踊りの「衝動」が何であるのか、つまりダンスの起源は何だろうなどと考えるようになり、答えを求めてアフリカへ行こうと決心しました。ところが、福田先生からジプシー（遊牧民）の踊るフラメンコが面白いよと言われ、それならヨーロッパからアフリカに渡ろうと考え、フラメンコの発祥地スペインに向かうことに決めました。1972年のことでした」

——今から半世紀も前、若い女性が単独でヨーロッパに行くことに不安はなかったのでしょうか。

「スペイン語も分からない、スペインの内情も分からない、その上フラメンコも習ったことがない（笑）。それでも私は喜々として旅立ちました。友人が、荷物は日本大使館に送っておけばいいと言うのでそうしました。マドリード到着後、大使館に行くと、ちゃんと荷物は届いていました。でも、職員にしっかりお灸をすえられました（笑）」

——何たる度胸、強心臓。幸運の女神も由利子さんに味方したようで、彼女は着々と成功へのステップを駆け上がるのである。

「すべてはスペイン在住の日本人が頼りでした。まずはサラマンカ在住の日本人にスペイン語の特訓を受けました。そしてフラメンコの拠点セビリアへ。ところが時間や約束を守らないスペイン人のルーズな気質に失望。そのくせフラメンコの教師は5分ごとにレッスン料を請求してくる。私の不信感は募るばかりでした」

英国青年とのロマンスそして名古屋へ

——そこに再び女神が現れ…。

「マノロ・マリン舞踊団を主宰するマノロにスカウトされました。

依田フラメンコ 公演ヒストリー(1987-2019年)
依田由利子フラメンコスタジオウェブサイトより転載。



バルセロナで舞踊団の仲間たちと(1974年、左端が由利子さん)



外国人は覚えが早いので即戦力になるとか。拠点はバルセロナでしたが、列車を乗り継ぎ各地を巡業する日々も和気あいあい楽しいものでした」

——そして運命の人、マイケルさんとの出会いがあるわけですね。

「英国人の彼はまだ学生で、夏休みを楽しむためにバルセロナに来ていました。この時ばかりは、フラメンコより彼に夢中になりました(笑)」

——1976年に帰国されるわけですが、日本での活動の地を名古屋にされたのはどうしてでしょうか。

「幸い、帰国後すぐに仕事が舞い込みました。それが名古屋だったんです。でも、日本に戻って痛感したのは、芸事や芸人が見下されていたこと。それに反発することが、帰国後の私のエナジーになりました」

——それが1979年のフラメンココンテスト(東京新聞主催)奨励賞につながるわけですね。

「名古屋にスタジオを構え、生徒を集め、フラメンコに没頭する毎日でした。そして1987年、初の公演を今池芸音劇場で開催しました。小さな会場でしたが満席になりました。よし、できる! と確信した瞬間でした」

ハンディのある人にもフラメンコを

——それから今日まで、毎年、趣向を凝らしたステージを展開されています。その後も定期的にスペインを訪れ、貪欲にフラメンコを学んでいらっしゃるのか。

「スペインには毎年通っています。世界が変わるように、フラメンコも日々進化しています。常に最新のフラメンコを提供し、生徒や観客の皆さんに喜んでいただく。それが教師の務めだと考えています」

——スタジオでは高齢者のためのレッスン「ソフトフラメンコ」を開講されているとか。どんな内容なのでしょう。

「マイケルと私には2人の息子がいます。長男は今年42歳、次

バルセロナでの修業時代(1975年、右端が由利子さん)



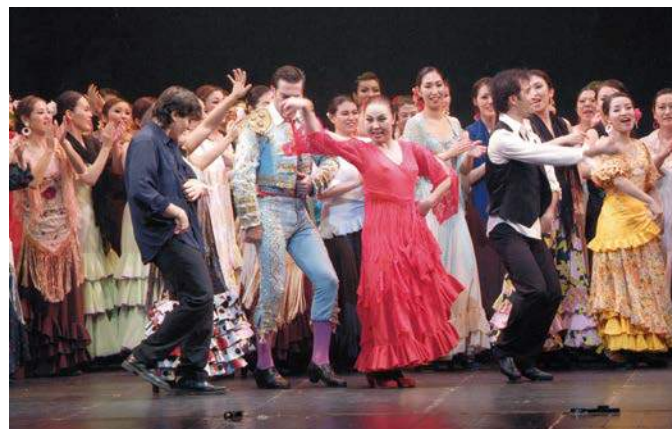
男は37歳になります。実は次男が自閉症になり、家族はつらい時期を過ごしました。心や体にハンディのある人や高齢者もフラメンコを楽しむことができないだろうか、と考えたのが『ソフトフラメンコ』でした。動きを細分化し、一つ一つの動きをゆっくり、時間を掛けて体得するシステムです。ご高齢の方、運動が苦手な方、ぜひ体験してください」

さまざまな体験生かしさらに精進

——長い取材にご協力いただき、ありがとうございました。最後に、由利子さんのこれまでの体験が、フラメンコにどう結びついているのか、今後の展望、希望をお聞かせください。

「幼少期に習った日本舞踊からは、礼儀作法や日常生活に欠かせない所作を学びました。美しく舞うために腰を落とすこと、体幹を重視する舞いの基本を学びました。モダンダンスは日本舞踊とは逆に、重心を引き上げて踊ること、空間を移動する体の使い方、群舞のムーブメントなどを学びました。そして舞踏からは踊るためのエネルギーが丹田たんてんから生まれることを学びました。

ピラミッドを想像してください。さまざまなジャンルを体験し、知ることによって底辺が広がります。底辺が広がれば広がるほど、大きく高いピラミッドができる。毎年、皆さんに違ったステージをお見せできるように、私は生ある限り好奇心を持ち続け、勉強したいと思っています。ありがとうございました」



2004年「カルメン」のカーテンコール(愛知県芸術劇場大ホール)

〈プロフィール〉

1947年、東京・日本橋生まれ。6歳から日本舞踊をはじめ、12歳から邦正美にモダンダンスを学ぶ。21歳からは笠井叡の舞踏に傾倒し「天使館」に入門する。

法政大学卒業後の72年、フラメンコを学ぶためにスペインへ。マノロ・マリン舞踏団にスカウトされ各地で公演を重ねる。

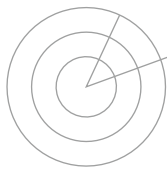
76年帰国。79年に東京新聞主催の「フラメンココンテスト」で奨励賞を受賞。名古屋にスタジオを開設し87年に初公演。以来、毎年公演を行っている。

東山スタジオをはじめ毎日文化センター名古屋校ほか各所で講師を務め、後進の育成に励んでいる。



2005年「アルテ'05」のフィナーレ(愛知県芸術劇場大ホール)

ピックアップ



今、若手音楽家が熱い! Vol.2

なごや文化情報390号において筆者は若手弦楽器奏者に焦点を当て紹介したが、今回は3人の地元出身若手ピアニストに注目していきたい。

今何といてもホットなのが、1993年生まれ東海市出身の務川慧悟むかわけいごであろう。務川は3歳からピアノを始め、2012年第81回日本音楽コンクール第1位を受賞し、本格的に演奏活動を開始、NHK交響楽団首席奏者とも共演をしている。昨年2019年、ロン・ティボー・クレスパン国際音楽コンクールピアノ部門で第2位を受賞した。愛知県立旭丘高等学校、東京藝術大学を卒業し、現在、パリ国立高等音楽院に在籍中。務川が小学生の時に一度共演をしているが、当時から才覚を表すのではないかと期待していたので、筆者としても非常に嬉しい。2020年4月に浜離宮朝日ホールでピアノリサイタルが行われる予定だったが、昨今の新型コロナウイルスの影響により、8月開催へと延期になった。仕切り直しのリサイタルに期待したい。

次に北村朋幹きたむらともきを挙げたい。北村は1991年愛知県生まれ。愛知県立明和高等学校、東京藝術大学を卒業し、2011年よりベルリン芸術大学ピアノ科で学び、最優秀の成績で卒業。2005年、第3回東京音楽コンクールにおいて第1位ならびに審査員大賞(全部門共通)受賞。筆者も北村の高校時代を知るが、定期演奏会ではトリを務め、悠然と空間に広がる響きを噛みしめながら演奏していたのが印象的であった。2019年4月にはウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルのメンバーで編成される「トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン」のソリストに抜擢されるなど世界的な活躍を見せている。現在はフランクフルト音楽・舞台芸術大学にて歴史的奏法の研究しんどうみゆに取り組んでいる。

またかなり若手になるが、進藤実優である。進藤は2002年大府市生まれ。現在、モスクワ音楽院付属中央音楽学校 予備科 ピアノ専攻在学中。2015年、大阪国際音楽コンクール グランドファイナル 第1位(総合第1位) 2017年、浜松国際ピアノアカデミーコンクール 第1位 中村紘子賞。筆者も二度ほど共演しているが、一度目は進藤が小学生の時、メンデルスゾーンのピアノ協奏曲第1

番であったが、タッチが速くなくても崩れないので素晴らしいと感じた記憶がある。二度目は、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番で、15歳とは思えぬ風格で訴えかけてくる音楽の力が強烈であった。2020年1月には電気文化会館ザ・コンサートホールでソロリサイタルを行った。さらに、ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 第5回派遣コンクールにて特別推薦者の1人に選ばれた。更なる飛躍を期待している。

(濱津 清仁)



務川慧悟 イタリア・イエージの劇場にて(2019年9月)



進藤実優 霧島国際音楽祭にてピアニストのダン・タイソンとともに(2019年7月)

いとしの サブカル

今、名古屋のお笑いが熱い!!

お笑い事務所「株式会社どっかんプロ」代表取締役社長

はま お わ き
濱尾 和毅

2005年、名古屋でお笑いライブを立ち上げ、自身もお笑いコンビ「ロコモコボンゴ!」の一員として、全国ネットのお笑い番組 TBS「あらびき団」にも出演。

現在、所属芸人もテレビ、ライブ、イベントなどで幅広く活躍中。

簡単に「お笑い」が、はじめられる時代になった。

インターネットでお笑い芸人さんを募集していると、1ヶ月に3人程度のお笑い芸人志望の問い合わせがある。うちのお笑い事務所「どっかんプロ」では、1年間の養成期間なんて設けていない。

「とりあえず3分のネタを作って、お笑いライブに出てください。」これが、はじまりなんです。

“何よりも実践”

英語を中高大学と10年間習っていても、アメリカに行ったら全く英語が聞き取れなかった私は、外国人の彼氏を作って英語がペラペラなイケイケ女子を見た時に絶望の淵に追いやられ、それを痛感した。

舞台という戦場で、常にお笑いに触れ、トライ&エラーで他人より頭抜けていけば、とっととお笑い芸人は育つはず。

人の価値観が目まぐるしく変わるこの時代、そんなに時間の猶予なんてないと私は思うんです。(もちろん、師弟制度や養成所にもそれぞれ素晴らしい部分はたくさんありますよ。)

そんな短時間で、お笑いの道を切り開こうとするブルドーザーみたいな手法を取るうちのやり方にも弊害はある。

うちの新人お笑いライブの“あるある”に、「本日、初出演予定のコンビ〇〇さんは来なかったので、早速引退されたみたいです。」というのがあります。

お客さんがどっと笑い、ライブの大きなツカミになる。

不安を抱えた新人芸人さんが、初日から飛ぶという怪現象だ。

でも、それが普通の人なんだと私は思う。

そもそも、人前に立って何かやってやろうという芸人さんは、常軌を逸した人間が非常に多い。お金が無さすぎてハトを食おうとする人、お笑いスターを夢見てお笑いを始めたのに某牛丼チェーンでどんどん出世していく人、突然他事務所に移り、何もなかったように帰って来る人。最後の人の限っては、事務所側の人間がガンジーのような聖人君子だとしても怒り狂って、ローリングソバットをかまされる位の沙汰ですが、その非常識な部分も許容して笑いに変えるのが、お笑い芸人なんじゃないかと。

そして今、名古屋のお笑いは熱い。

最初っからある程度のレベルの新人芸人さんも沢山います。

昔と違い今ではお笑い芸人さんをテレビで観る機会が非常に増えてますし、ネットで検索すれば、面白い芸人さんのネタを観ることもできますし、お笑いの教材がそこらじゅうに溢れてる時代なんです。

どこぞで観たような感じがする、有名な誰かに似た芸人さんもありますが、たまにキラリと光る才能を持ち合わせたとんでもない新人芸人さんも現れます。

そんな色々なタイプのお笑い芸人さんが集い、淘汰しあうお笑いライブが名古屋でも開催されています。是非、生のお笑いライブを一度は観に来て欲しいと私は願うばかりです。



通算180回を超えるお笑い定期ライブ「茨の珍道」



新人バトルお笑いライブ「茨への階段」も145回を数える

お笑い定期ライブ「茨の珍道」

毎月第4木曜日開催

開場 19:00 開演 19:30

会場：CLUB SAR
(名古屋市中区金山 3-5-23)

料金 1500円(1d付)

出演：ロコモコボンゴ!、ウェイウェイズ、
酒井直斗、ピカソ、空飛ぶリビング、
ハヤシユウ、きやらめる、
工作太郎、法応理電

新人バトルお笑いライブ「茨への階段」

毎月第3火曜日開催

開場 19:00 開演 19:30

会場：ナンジャール
(名古屋市中村区亀島 2-26-5 キジビル 4F)

料金：800円

出演：新人芸人



名古屋市文化基金
Nagoya Culture Fund

なごやの文化を褒められると、うれしい。

文化事業への寄附金を活用し 創造性と都市の魅力を高める 文化力によるまちづくりを目指しています。

支援と育成

芸術や文化活動の支援と育成をしています。

参加と交流

みなさまが参加し交流できる事業を展開しています。

芸術の鑑賞

文化や芸術のご紹介や鑑賞をしています。

情報の発信

さまざまな芸術や文化の情報を発信しています。

ご寄附の際は、インターネットを利用したクレジット決済(クレジット寄附)もご利用いただけます。

ご寄附のお問い合わせ | ご寄附は、いつでも受け付けております。



名古屋市文化基金 Eメールアドレス
a3172@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp



名古屋市観光文化交流局
文化歴史まちづくり部文化振興室
TEL: 052-972-3172



公益財団法人
名古屋市文化振興事業団
TEL: 052-249-9390

税の控除について | この寄附金は、ふるさと納税の対象です。

○個人の場合 | 確定申告によって、以下の金額を所得税及び個人住民税から控除することができます。

所得税(所得控除)

寄付金額
又は
総所得の40%
のいずれか低い金額
○ 2千円
⊖ 寄付金控除額

* 特別控除額 = (寄附金額 - 2千円) × (100% - 10% (基本分) - 所得税率)

個人住民税(税額控除)

寄付金額
又は
総所得の30%
のいずれか低い金額
○ 2千円
⊗ 10% ⊕ 特別控除額
⊖ 寄付金税額控除額

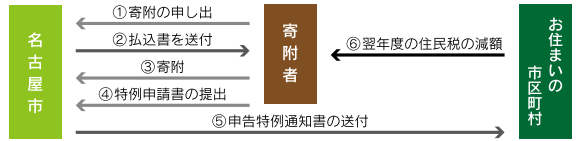
※ 所得税率は復興特別所得税を含めた率 [注意] 特別控除額は 所得割額の2割を限度とします。



○法人の場合 | 寄附された金額を法人税法(第37条第3項第1号)の規定により損金算入することができます。

「ふるさと納税ワンストップ特例制度」をご利用いただけます。

ふるさと納税をした翌年に確定申告を行うことが必要です。ただし平成27年4月1日以降は、寄附時に「ふるさと納税ワンストップ特例制度」の申請をさせていただくことで、確定申告をしなくても控除を受けられるようになりました。(特例制度は、給与所得者等の方で、確定申告の必要がない方、寄附先の都道府県及び市区町村が5団体以下の方に適用されます)
※ 確定申告には、この寄附金の領収書が必要となりますので、大切に保管してください



詳しくは、市公式ウェブサイト内 **名古屋市文化基金**



頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー



アートディレクター



印刷コンサルタント

駒田印刷株式会社 TEL(052)331-8881

〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 http://www.kp-c.co.jp

WE MAKE YOU MOVE
感動をあなたへ

20Hz ← → 20kHz



PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK
舞台音響/映像設備
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する

株式会社 **エーアンドブイ**

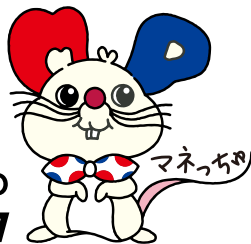
〒464-0846 愛知県名古屋市中区栄三丁目18番1号
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

公演・発表会の受付から制作業務全般まで、何でもご用命ください。美術展の受付も対応いたします。

業務内容

- ①舞台の企画・制作マネジメント
- ②イベントの企画制作
- ③芸術団体のコンサルティング
- ④舞台・イベントの運営

MANAGEMENT PRO
株式会社 **マネージメント・プロ**



〒461-0008 名古屋市中区東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル305

TEL:(052)508-5095

FAX:(052)508-5097

Web:www.mane-pro.com

E-mail:mane-pro@mane-pro.com

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。



◎年間6,600円で毎月お手元にお届けいたします。

◎毎月24,000部発行

※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、ホール、DM 等にて配布